

広島の人みんなが語り部に

《小学生の部 金貫》

向洋新町小学校六年 津田 聖花

私は、広島の人みんなが語り部になれるくらい、被爆者の声に耳を傾け、自分に置きかえて考え、自分の言葉で伝えられるようになることが、SDGsの目標の一つでもある平和な未来につながると思います。

世界では、今、この瞬間もどこかで紛争や戦争などの争いごとが起きています。被爆体験をした広島だからこそ伝えられることはたくさんあります。被爆の恐ろしさや悲惨さ、戦争での貧困を乗りこえ、私の大好きな今の広島のあるからです。例えば、広島には、修学旅行で、たくさんのお客さんが来ます。そこで、彼らに、広島が体験したことを私たちが私たちの言葉で伝えられるようになります。

私たちの広島は、きれいな川や美しい海、豊かな緑にあふれています。戦後、復興したこのすばらしい広島を街を守りながら、これからもずっと、広島を中心に原爆ドームが存在し続け、被爆体験や平和を願う気持ちが広島の人々のアイデンティティとなっていく未来がおとずれるといいと思います。

いろいろな個性を受け入れよう

《小学生の部 銀賞》

牛田新町小学校五年 伊藤 弘喜

ぼくは、いろいろな個性がいかされる、みんなが楽しい広島市になってほしいです。

ぼくには、やんちゃで、いつもハッピーな友達があります。授業中に、ものさしでチャンバラをしたり、変な顔をしたりします。クラスのみんなは、最初、その友達のことを楽しんで笑っていましたが、たびたび授業が中断してしまうので、だんだんみんなのストレスがたまつて、中には、その友達にひどい口調で怒る子がでてきました。とうとう、しんどくなつた友達は、

「ぼくのどんな所を直したらいい？」

と、みんなに聞いて直していくようになり、すると、みんなも関わり方がかわりました。

いろいろな個性があるから、ぶつかるとは当たり前だと思えます。でも、そのまま悪口を言つて、さけていてもつまらない。思い切つて、自分の気持ちをぶつけた友達の勇気はすごいし、受け入れたみんなもかっこいいと思います。ぼくのクラスにかぎらず、広島市みんなが、いろいろな個性をみとめ、「受け入れる」町になってほしいです。

やさしいひろしま

《小学生の部 銅賞》

向洋新町小学校一年 宇都宮 あさひ

わたしは、おとしよりにやさしいひろしまであってほしいとおもいます。

わたしのちかくには、わたしのおじいちゃんやおばあちゃん、おとなりのいえのおばあちゃん、うらのいえのおばあちゃん、そつえんしたようちえんのえんちようせんせいなどたくさんのだいすきなおとしよりがいます。わたしのおかあさんも、わたしがおかあさんになるころには、おばあちゃんです。

わたしは、みんなにやさしくしてもらったぶん、わたしがおとなになったときおかえしいたいです。もしも、さみしいひとがいたら、だいじょうぶ？とこえをかけてあげたいです。

わたしがおかあさんになってもやさしいひろしまがずっとつづいたらいいな。

持続可能な広島のみち

《小学生の部 銅賞》

瀬野小学校四年 田中 夢芽

わたしは、広島がしよう来、どんな災害が起きたとしても、早いふつ旧で、持続可能なまぢになつたらいいなと思います。なぜなら、わたしは、三年前のごう雨災害で、不便な生活をけい験したからです。い動や買い物ができなくなり、学校は長い間休校になつてしまひ、ずつと家でふつ旧を待つしかありませんでした。一日にして、それまで当たり前だつた生活が、当たり前ではなくなりました。まるで瀬野だけ時間が止まつたようで、取り残された気分でした。瀬野の町でさえ、ふつ旧に時間がかつたので、多くの人や建物が集まる場所ほど、時間が止まつて、災害からのふつ旧がむずかしいと思います。

だから、災害にそなえた活動が大切だと考えました。わたしは家族と、防災フェスティバルで習つた非じよう食や防災服を作つて、げん関のたなの中に入れていきます。災害が起きても、持続可能なまちであり続けるには、防災の学習をする機会をふやして、いつもそなえておくことが必要だと思います。

感謝の輪を広げよう

《小学生の部 入選》

春日野小学校五年 早見 友李

「ありがとうございます」

私はこれほど素晴らしい言葉を知りません。私はこの言葉が大好きで、自然に口から出てきます。また、友達や家族に言われるとうれしくなります。この言葉は「魔法の言葉」だと思っています。その魔法には感謝という特別な気持ちがつまっているようです。

昨年、私のクラスに転校生が来ました。

「トランプゲームしよう。」

と私から話しかけました。それをきっかけにとっても仲良くなり、その子が、

「いつもやさしく接してくれてありがとうございます。」

と感謝の手紙をくれました。私はうれしくてうれしくて、それ以上の感謝を返したいと思い、私も手紙で伝えました。このくり返しはきつと「感謝の輪」となり、みんなに広がるのではないかと気付きました。

私はこの町全体を「感謝の輪」でいっぱいの方にしたいです。そして、広島をこえて他の町まで「ありがとうございます」があふれると、魔法にかかったようにみんなが幸せな気持ちになれると信じています。

おいしいカキの町

《小学生の部 入選》

春日野小学校四年 松林 叶実

おいしいカキがずっと食べられる広島であってほしいとわたしは思います。

わたしは二か月前に横浜市から引っこしてきました。広島のカキを初めて食べた時、身がプリプリしてあまくて、すぐくのうこうでびっくりしました。いつの間にかカキフライを十こ食べていました。宮島に行った時、海にカキをようしよくしているいかだがたくさんあるのを見ました。カキのお店のパンフレットには、中国山地の山からしみ出している天ねんのないよう分が川から海に運ばれることでおいしいカキが作られるとありました。

これからもおいしいカキが作られるためには、山と海の豊かさを守らないといけません。山の木をむだにばっさいしないためにも、わたしは木で作られたつくえを大事に長く使いたいと思います。広島は日本で一番ごみの分別をしていると聞きました。海を守るためにも、プラスチックごみが少しでも減らせるように、わたしもごみの分別に気を付けていきたいです。

原ばくドームと広島

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 中島 久玲羽

私は、十年後、二十年後の広島が世界中の人たちに平和の思いをうったえる中心になっているといいなと思いました。

広島には、原子ばくだんによって作られたきずあとがあります。そのきずあととはとても大きく、胸をしめつけられるような悲しいものばかりです。しかし、そのきずあとには、平和を願う人たちの思いをうったえる力があります。その力を使って、たくさんの人たちのうったえを全世界に広めてほしいです。

また、広島のうったえる平和は、最近注目されているSDGsにも関係性があります。平和と公正を全ての人に。そして世界的にも見ると、ジェンダー平等を実現しよう、人や国の不平等をなくそうなど、関係性がたくさんあります。だからこそ、広島が世界中に平和への思いをうったえる中心になっていればうれしいな、と思います。

世界中の人たちが笑顔になれるきっかけを広島のみんなで作れたら、きっと広島の人全員がこの町をほこりに思い、大好きになれると思います。

しぜんがいつぱいの広島

《小学生の部 入選》

船越小学校三年 児玉 佳奈

わたしは、おじいちゃんから、昔は船越でも魚をとって食べていたけど、今は川や海がよごれて、食べられるような魚がとれなくなつたと聞きました。わたしは、何で川や海がよごれているのかなと思って調べたら、昔は工場から出るよごれが、一番多いかったけど、今は家ていから流している生活はい水が一番の原いんで、いったんよごれてしまった水をきれいな水にもどすことは大へんな事だと知りました。水をきれいにするためにわたしにできる事は、何かかと考えました。お風呂の時は、シャンプーやコンディショナーを使いすぎないようにしたり、ごはんの時は食べのこしを水で流さないようにしたり、トイレトペーパーを使いすぎないようにこれからやっていこうと思います。みんなも、気をつけて川や海の水が、きれいになつて魚がまたもどつて来たらいいと思います。

プラスチックをつかわない広島

《小学生の部 入選》

畑賀小学校二年 鈴木 貴登

ぼくは、しょうらいプラスチックをつかわない広島になったらいいと思います。それは、広島はおいしい魚がたくさんとれる町だからです。プラスチックが海にながれてしまうと、それがマイクロプラスチックになって、魚たちがそれをエサとまちがえて食べてしまい、人間がその魚を食べてしまうと、体のちようしがわるくなってしまいうからプラスチックをつかわない方がいいと思います。それに、鳥やほかの生きものもプラスチックごみのせいで、死んでしまうといけないから、プラスチックはあまり作らず木やかみ、ぬのをプラスチックのかわりにつかい、生きものが死んだり、びょうきになつたりしないようにになったらいいと思います。

ぼくはできるだけプラスチックのものをつかわずに生活して、プラスチックごみをへらして、魚たちがマイクロプラスチックを食べてしまい、けつきよく自分たちが食べてしまわないようにしたいです。そして魚たちも、きれいな海でくらせるようになったらいいと思います。

1111のいのち

《小学生の部 入選》

大塚小学校四年 三好 菜々美

わたしは、きよ年の夏休み海に行きました。海で、魚が死んでいるのを見ました。魚をよく見ると、プラスチックが魚にからまっていました。だけど、わたしは、どうすることもできませんでした。

それから一年後、学校で「SDGs」について学びました。学校のテレビで見たえいぞうの中で一番心にのこったのは、人がすてたゴミを食べ物かと思つて鳥が間ちがえて食べてしまったえいぞうです。人が海やまちにゴミをすてることで生き物が安心してくらせるような世界にならないのです。魚や動物も人間と同じで大切なのちをもっています。もし自分が魚だったらと考えてみましょう。人間が海にゴミをすてないだけで一つのいのちだけでもすくえるかもしれないのです。

だからわたしは、魚や動物、人間が安心安全でくらせるような広島にしたいです。そんな広島にするために、わたしたちができることはたくさんあります。まずわたしは、ゴミの分別や公園などにおちているゴミをひろうことから始めていきたいです。

美しい町広島

《小学生の部 入選》

千田小学校四年 相馬 吏緒

広島は七十年間は草も木もはえないと言われましたが、今では草と木にかこまれて、とても美しい町となっています。私は広島が、みんなが行きたいと思う美しい町、そして人にやさしい町になったらいいなと思います。なぜなら、広島の人々はとてもつらいれきしを知っているからです。つらいことを乗り越えてきた一人一人が平和をいのつてこの町をつくってくださったように、今度は私たちが平和な町広島をつくっていかなくてはならないと思います。広島の人たちは花や木の大切さを知っています、命の大切さも知っています。一人一人の行動が心のゆたかさにつながることも知っています。平和の大切さを語りつなぐことは、広島が美しく、人にやさしい町作りを持続するいい方法だと思います。その取り組みはSDGsの取り組みへとつながっていきます。助け合いみんな生きていくだけ一人取りのこさない平和な町広島になってほしいです。だれ一人ぎせい者がでない、平和でみんなが幸せにくらせる、広島になってほしいです。

守りたい広島 naturally

《小学生の部 入選》

向洋新町小学校四年 竹原 香凜

わたしは広島県の森林や海などのゆたかな自然を未来まで守っていききたいと思います。

たとえば、ゆたかな森林をのこすために、わたしは森林のかんばつ体けんをしました。かんばつをすることによって、根をはったじょうぶな木をのこし育てることができます。そうすれば西日本ごう雨災害のような森林の手入れ不足による土砂災害をふせぐことができました。もしもありません。

一方、海に関しては、以前よりゴミをすてる人が多くなってきました。すると、海の生き物や鳥などが食べて死んでしまいます。そうならないためには、みんなでゴミを拾うと良いと思います。「ゴミ拾い週間」を決めてみんなで協力してゴミを少しでもへらしたいです。

またゴミへらすことはわたしたち小学生でもできます。これは3Rのリデュースになります。もやすゴミをへらせば温暖化ガスをへらすことができます。

このような未来の広島 naturally の森林や海を守る活動に参加して、自然を守っていききたいです。

よかった広島で

《小学生の部 入選》

己斐小学校五年 児童

わたしは、夏休みに広島へ来た。初めての広島だ。最初は、広島弁がこわかった。

学校が始まった。クラスの子が分からないことを教えてくれたり、いっしょに遊んでくれたりしてくれた。わたしがもともうれしかったことは、友達が手紙をわたしてくれたことだ。わたしはこの時、心のとびらが開いた。家に帰るまでずっとうれしい気持ちだった。「ありがとう」と心から思った。

それからだんだんと広島弁にもなれてきた。友達と仲よくなり、放課後に遊ぶことが多くなってきた。今は、コロナ禍で友達の顔半分しか見られなくて残念だ。私はいつか心のとびらを開いてくれた友達の顔をしっかりと見て、気持ちをお礼をしようと思っている。

わたしは、心の扉を開いてくれるやさしい子が広島にはいると気付いた。だから、やさしい人が多い広島の町に行きたい。

食品ロス0の広島をめざす

《小学生の部 入選》

春日野小学校五年 西 千歳

私は、食品ロスについて調べました。食品ロスとは、手つかず食品や食べ残しなど、本来食べられるのに廃棄される食品のことです。

日本では、年間約2513万トンの食品が捨てられており、そのうち約600万トンが食品ロスです。広島市で捨てられる食品ロスは、年間約2・5万トンで、マツダスタジアムの約一杯分に相当するそうです。こんなにたくさん量の食べ物が捨てられているのに、世界では、9人に1人がきがに苦しんでいると知って、とてもおどろきました。

食品ロスを減らすために私が考えたことは、好ききらいせず残さず食べることに、すぐに食べないときは賞味期限の長いものを選ぶ、食べられる量だけ食べることや、外食しに言ったときは、食べ切れる分だけ注文することです。

食品ロスを減らすためには何をしたらいいか、どのようにしたらいいかを一人一人が考えながら生活することが大切だと思います。

平和な広島

《小学生の部 入選》

宇品小学校五年 田坂 玲寧

先日、図書館に行った時、父が一さつの本を見せてくれた。その本は佐々木禎子さんの本だった。私は、何でだろうと、どんどん読んでみると、祖父の名がのっていた。その理由を父に聞いてみた。すると父は、

「おじいちゃんは、佐々木禎子さんと同じクラスで、リレーの選手に選ばれたんよ。ここに写真ものつとるよ。」

と言った。私は、どうしてつみのない人が原爆のひ害で死んでしまうのだろうと思った。

禎子さんだつて、生きたかつたと思うし、私だつて十二才で死にたくはない。もつともつとやりたいことがあつたはずだつたから、夏休みに祖父に、子どもころの広島の様子や、日本に原爆が落ちたことについてどんな気持ちだつたのかを聞いてみたい。これから他の国とのあらいがたい広島がいいなと思う。また、自分だつたらなにができるかを考えてみようと思う。まずは、かこの戦争についてよく勉強すること。そして、だれとでも、やさしくせつする気持ちが大切だと思う。

人への思いやり

《小学生の部 入選》

口田東小学校五年 荒木 心花

ある日、テレビのコマーシャルで、「横断歩道で停まらないランキング第二位」ということが分かりました。私は、おどろきました。広島の人々はとてもやさしい人だと思っていたからです。だから、車に乗っている人は、歩行者に対しての思いやりが無いんだと思い、とてもショックでした。

私たちは車に乗ったことが無いので、乗るがわの気持ちは分かりませんが、歩行者の私たちの気持ちとしては、「止まってくれる人はいないかな。」と思いつつ、待っている人が多くと思います。

なので、私たちが大人になり、車に乗るがわになった時は、できるかぎり止まって、歩行者をゆう先らせてあげた方が、歩行者もきつとうれしいと思います。歩行者の人も、止まってくれた車にはしっかりと礼をすれば、歩行者も運転する人も、いい気持ちになると思います。これから広島県は、停まるランキング一位を目指し、思いやりのある県にしていきたいです。

五日市東小学校五年 織掛 一耀

ぼく達が住む広島市は緑あふれる平和で豊かな都市だ。だが、忘れてはいけない事がある。一九四五年、ぼく達が産まれるずっと前、広島に世界初の原子爆弾が投下された。戦争はなぜ起こるのか？ぼくは、SDGsにある貧困や格差、不平等や差別からくるのだと思う。この問題はぼく達が今、出来る事は少ないと思う。だが、不平等や差別は身近で起こっている。自分で出来る事は何か。例えば友達の見聞に耳を傾ける、人を外見で判断しない、物事の解決手段として暴力を使わないなどに気を付けたい。この様な考えが多くの人達と共有する事が出来れば、ぼく達が大人になった時、広島も世界もより良い方向へ進んでいるのではないかと思う。ぼくはそうあってほしい。

SDGs達成目標期間は残り九年だが、平和への取り組みは常に行うべきだ。七六年前の悲けきを忘れず後世に伝え続け、戦争の悲しさや平和でくらす事のありがたさを世界へ発信して行く事が出来る都市にしていきたい。

やさしい広島

《小学生の部 入選》

尾長小学校六年 山元 陽斗

ぼくのお母さんの友達は病気で体が思いどおりに、動かなくて車いすで外に出るのがやつとです。身のまわりのせわをしている人がいないとだめです。このように病気をかかえ持っている人たちが自由にくらせるためにはどのようなようにすればよいのでしょうか。

時々、お母さんのその友達といっしょに外出したことがあります。その時、ぼくも車いすをおすを手伝わせてもらいました。ふ段は、気にならないような小さな段差でさえ、車いすで移動するのが大変だと思いました。

また、歩行者の一部の人で車いすに気を使わず、車いすをおすぼくたちが、「すみません。通してください。」と言って、道をあけてもらうことがたくさんありました。

車いすの人や体の不自由な人が、外出した時に、「すみません」という言葉ではなく、「ありがとうございます」と笑顔になれるように、まわりの人たちが気づかえるようになれたらいいと思います。ぼくも、今以上に気をつけたいし、そういう広島になつていけたらいいと思います。

だれかのためにと思える広島

《小学生の部 入選》

中野小学校六年 谷村 紅葉

私はヘアドネーションに挑戦しました。ヘアドネーションというのは病気で髪に悩みを抱えた人たちのために15センチメートル以上髪を切り、ヴィッグにしてそれを無償で提供する活動です。髪が伸びて結ぶのがめんどうくさいなと思い始めたとき、お母さんにそういう活動があるのを聞いて、自分も髪をきってすっきりできて、だれかのためになるのなら是非参加してみたいと思いました。ですが、切り方など色々ルールがあつて、それに沿ってカットしてくれる「賛同美容室」の数が少ないことを予約するとき知りました。まだまだ知られていないのだなと思いました。普通、美容室で切った髪は捨ててゴミになります。ですが、ヘアドネーションは切った髪を再利用できるので環境にも優しいし、かんじやさんたちがヴィッグを身につけることによって自信を持って外を歩けるようになるので人にも優しい活動だと思います。広島にもっとこの活動を理解してくれる人が増えて、それをきっかけにだれかのためにと思えるやさしい広島になってくれたらいいなと思いました。

ゆずり合う広島

《小学生の部 入選》

亀山南小学校六年 岡田 紗朋

私は、未来の広島がみんながゆずり合い、笑顔がいっぱいであってほしいです。そうすること自然とだれとでも仲良くなっていたり、話せたりすると思うからです。

私は、広島が横断歩道を渡りたい人がいてもあまり車が止まらないということを知ったことがありません。止まって先に渡らせてもらったら、私はうれしいです。でも、ただ渡るだけだと、せつかく止まってあげたのにと止まってくれた人は思うかもしれません。だから、ちゃんと止まってくれた人にお礼の気持ちが伝わるように渡るといいと思います。そうすることで、次も止まってあげようという気持ちになり、みんな心が温かくなり、笑顔になると思います。もし、会ったら、前に止まってくれた人だとなり、少しでも話せると思います。

小さいことから順番に直していくことでだれが見ても広島っていいなと思うのではないのでしょうか。だから私は、ゆずられたらちゃんとお礼の気持ちを伝えたいです。

こんな広島 すてきだな

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 濱田 万輝

私は広島の平和を願う思いが強いところがすてきだと思います。

なぜなら、原爆が落ちたこの広島に平和を願う思いがないと、今の広島は存在してないと思ったからです。

こう思った出来事が二つあります。

まず一つ目が五年生のころに学習した平和学習です。本川小学校には地面から出てきた銃や戦時中に着ていたと考えられる服などが展示されていました。私は、それを見て「子供たちはこの展示物を見せ戦争が恐ろしいことを伝えているんだな。」と思いました。

そして二つ目です。担任の先生がお話してくれたサッカースタジアムのことです。土木工事をしていたら人の骨が出てきて大切にあげたという話を聞いて私は心が温まりました。先生の「亡くなった人も大切にしている」という言葉を聞いて共感しました。

このことから私は、今の広島は平和を願っていてすてきだなと思いました。

みんなが楽しくすごせる広島へ

《小学生の部 入選》

上温品小学校六年 岡 明佑美

私は少子高齢化のことに目を向けました。

私が住んでいる所では、祭りやもちつき大会があり、とても楽しいです。しかし、だんだんと高齢者が増えていき、夏祭りはなくすかなど話もされています。また、私の家の近くに住んでいるおばあちゃんや病院に入院したいからもうしこんだけど、キャンセルされてまた次の病院をさがさなきゃいけないと困っていました。これは、コロナのこともあるが、高齢者が急激に増えているからとニュースでいっていました。

だから私は、高齢者しせつをふやして、多くの高齢者が安心してくらせる社会をつくったり、安心して子供を産めるように育児休かをとりやすい会社づくりを始められるような社会をつくりたいです。

みんなが楽しくすごせるためには、みんなが赤ちゃんから高齢者まで全員のことを考えて生活、会社づくりをする必要があると思いますし、私もその一員として、自覚をもって生活したいです。

気持ちの良い広島へ

《小学生の部 入選》

牛田新町小学校六年 児童

私は、将来広島が、ごみが落ちていないきれいなまちになってほしいと考えます。

私は毎年、地域をまわる美化活動に参加していました。一見きれいにみえるところも、道路のすみや植えこみの中などをよく見るとタバコのすいがらや空きカンがたくさんあつてとてもおどろきました。それと同時に、少しいやな気分になりました。自然が多く、緑豊かな場所でも、ごみがあるだけで全くちがうのだなと思いました。

この体験から、ごみは自分で持ち帰ったり、ごみ箱にきちんと捨てたりすることなどの基本的なことがとても大切だとあらためて考えるようになりました。ひとりひとりが小さなことをがんばれば、ごみのポイ捨てを少しずつでも減らしていけるのではないかなと思います。

私自身が積極的にごみの持ち帰りに気を付けることで、他の人も心がけていってくれたらいいなと思います。こうした活動を続けていつか、広島からごみのポイ捨てが無くなつてほしいと考えます。